

平成 25 年 5 月 18 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 25 年度第 4 回

君子者か色荘者か

先程、岡本代表幹事がとても良い話をしてくれました。都知事や府知事経験者が国益を損ねるような軽率な発言をしています。夏には参議院選挙を控えていますが、投票する時には立派な人物なのか、口先だけの人間なのかよく見極めましょう・・・今日の論語の視点そのままだと思います。

では、論語の解説から参りましょう。

【二十】子曰く、論の篤き^{ろん あつ}に是れ^こ与^{くみ}せば、君子者^{くんししや}ならんか、色荘者^{しきそうしや}ならんか。

孔子が言うには、誠実そうなものの言い方をして立派そうに見えても、一皮むくと、君子か上っ面だけの人物かが分かる。よく中味を見なければいけない。

君子者とは人格者、リーダーとして相応しい人物です。色荘者とは、一見良さそうに見えるけれども一皮むくと中味は酷い、口先だけの人物です。渋澤栄一さん流に言うと、職業政治家・職業演説家・職業宗教家のような人達です。渋澤栄一さんは明治時代、「最近の風潮はこまったものだ。自分の中味を磨かずに口先だけで実行が伴わない。どうなっているのか・・・」と嘆いています。

弁論爽やかなので、君子と思って色荘者に票を入れてしまうこともあるから気をつけましょう。まさに、岡本代表幹事の挨拶と一致していると感じました。

論語は何度も申し上げているように、現代に置きかえて考える・自分自身に置きかえて考える。そうしないと身体の中に入って来ません。

【二一】子路 問う、聞く^きままに斯^{こゝ}に諸^{これ}を行^{おこな}わんかと。子曰く、父兄^{しいわ ふけい} 在^{いま}すこと有^あり。之^{これ}を如何^{いかん}ぞ、其^それ聞く^きままに斯^{こゝ}に之^{これ}を行^{おこな}わんと。再有^{ぜんゆう} 問う、聞く^きままに斯^{こゝ}に諸^{これ}を行^{おこな}わん

かと。子曰く、聞くままに斯に之を行えと。公西華曰く、由や 聞くままに斯に諸を行わんと問いに、子は父兄 在すこと有りといえり。求や聞くままに斯に之を行わんと問いに、子は聞くままに斯に之を行えといえり。赤や 惑いぬ。敢て問うと。子曰く、求や退く。故に之を進む。由や人を兼ね。故に之を退くと。

ここはイメージを先行させて戴くとよろしい。登場人物は何歳くらいなのか、どういう雰囲気で喋っているのか、どういう状況なのか…等々考えて読まないとなかなかイメージが湧いてきません。孔子は幾つくらいなのか、自分を孔子に置きかえたり、お弟子さんの立場に置きかえたりして考えるとよろしいでしょう。渋澤栄一さんはそういう読み方をしています。

この時、孔子は60代半ばです。子路は55歳前後ですから、(五十にして)天命を知るといふ時期、脂ののっている頃ですね。冉有は35歳前後ですから、(三十にして)立ったばかり。その二人が孔子に質問しています。子路は猪突猛進ですから、孔子に対して、言いたいことをガンガン言っているのでしょう。その側にいる冉有は、引っ込み思案でなかなか自分の言いたいことを言えないタイプ。問答を聞いている公西華は、冉有よりも更に若い20代半ばです。果たして孔子は子路の質問にどう答えるのか、冉有に対してはどうか、ハラハラしながら見ているという状況をイメージするとよろしいでしょう。そうすると素読も自然と読み方が変わってくると思います。

子路が孔子に聞きました。「聞いたらすぐに実行してよいですか」と。

孔子が、「お前は出過ぎているのだから、父兄が生きているうちは少し控えめにしなさい。少しは考えなさい。聞いたとおりに行うものではない」と答えました。

・・・子路に対しては、「お前は何を言っているのか、馬鹿もの」という気持ちが入りますから、少し語気が強くなりますね。

冉有が孔子に同じことを聞きました。

孔子が「お前の思うとおりに、やりなさい。」

・・・おじいさんが孫の背中を押すような感じで、穏やかに答えたのでしょう。

側で聞いている公西華が孔子に聞きました。「聞いたらすぐに実行してよいかと質問した時、先生は子路にはいけないと言い、冉有には実行してよいとお答えになりました。私には分かりません。どちらが本当なのか、教えて下さい」

孔子が答えました。「冉有は消極的だ。だから励ましたのだよ。子路は見るからに強そうだろう。出しゃばって人を押しつけようとする。だから控えなさいと言ったのだよ」

・・・一番年の若い新卒のような子に、論すように答えたのでしょうか。

孔子はお弟子さんたちに対して、話の仕方も中味も皆、変えています。だから論語はおもしろいのです。20代の時に論語を読むと、公西華の気分を読むし、30代で読むと30代の読み方になるし、50代で読めば50代の読み方になります。それぞれ読み方・受取り方が違います。

この部分は完全に教育論ですね。現代に置きかえて考えると、アベノミクスの成長戦略の中に、安倍さんは教育を据えていますから、それは悪くないと思います。更に、3年間で実行したいと言っています。論語の中に、孔子がお弟子さん達に「もし一国の総理大臣になったなら、何をどれくらいの期間でやるか」と質問し、子路は「私が総理大臣になったら3年で国民の意識を変え、国を富ませます」と答えている問答があります。3年という期間が、アベノミクスの成長戦略と一致しています。

安倍さんのやろうとしていることは本心からやろうとしているのか、それとも参謀の知恵を貰って単純にやっているだけなのか？ 革新的な行為なのか、上っ面だけなのか？ まさに「君子者か、色荘者か」ということになります。いずれにしてもアベノミクスのやり方をよく見ていなければいけません。そうすると本質・大局・歴史で見直しをしましょうという部分に繋がります。

本質・・・安倍さんは本質的にどういう人物かを見ることによって、判断基準が変わってきます。皆さんは鏡を見ますよね。今朝、鏡を見て、今日は良い顔だなと思った方もいらっしゃるでしょう。野田さんも総理大臣になった直後はキラキラ輝いていて、さあ、私はこれからやるぞ！と非常に良い顔をしていました。それがだんだんと貧相になり、悪相になって、同じ人かと思うくらい変わりますね。

余談ですが、良い顔というのは、自分一代で築いたものではないのです。両親の積善、余慶が入って良い顔が出来る。両親は、そのまた両親のおかげで良い顔になる。良い顔は三代くらい続かないとならないそうです。良い顔だなと思うのは、やはり代々続いてきたもので、更にその人が良い事をする、良い顔で花が開くのだと思います。

そうすると安倍さんの本質を見る時に、アベノミクスの成長戦略は安倍首相一人の思いなのか、親の思いは入っていないのか、先祖の思いは入っていないのか・・・ずっと家系を遡って考えればよろしい。

大局・・・日本を踏まえて世界各国の立場を良く考えるとよろしいでしょう。色々な国々の見方を入れることです。例えば領土問題を見る時に、アメリカから内緒のサインがロシアや中国に出ているようですね。少し紛糾していた方がアメリカにとっては国益になるか

らです。

歴史・・・日本の国の歴史をずっと眺めていくとよろしいでしょう。

本質・大局・歴史で見直すことによって、自分の判断基準、しっかりしたものが見えてくる。そういうことを踏まえて投票されればよろしいと思います。

大きな目的を持つと元気が出る

では、恒例の質問に参ります。

○ 昨日一日、嘘をつかなかった方？

皆さん手が挙がりました。嘘をつかないことが定着してくる、嘘をつかない日々が続くと、朝起きた時にどんな気分になるか自覚をされている方はいますか？ 嘘をつかない日々を過ごしていると、朝の目覚めが爽やかです。

○ 昨日一日の中で、有難うと言ひ・有難うと言われた方？

手を挙げた方の中で、昨日の「有難う」は実に感じ入った良い「有難う」だったという方はいますか？

(山崎幹事 体験談発表)

○ 昨日一日、良い日だったと思う方？

昨日は良い日だったなとしみじみ思う方、体験談をお話下さる方はいますか？

(青木会員 発表)

良い事はおすそ分けをして下さい。そうすることで、皆さんに笑顔が増えて非常によいことです。良い事は広げて輪を作っていく。これを実行しましょう。

○ 昨日、自分なりの健康法を実践した方？

ご紹介したい健康法がある方はおられますか？

(山崎幹事 発表)

身体が健康になる話と、精神的な健康法と両方言っ戴きましたので非常に良ろしいです。

○ 明日を過去形でイメージして眠れた方？

橋本聖子さんのイメージトレーニングの話で以前致しました。橋本聖子さんは肺が悪いのです。普通の人々の半分程度しか動かないのだそうです。そういう肉体的条件を克服してオリンピックで入賞する。その時の最大のポイントがイメージトレーニングだと言っおられました。実際の滑走を具体的に、腕の振り方やスピードの上げ方、何秒で回ってゴールする・・・とイメージする。不思議に頭の中でイメージしたものと、現実に滑るものが

一致するのだそうです。イメージというのは素晴らしいですね。明日を過去形で考える一つの例を申しました。

先週の東京フォーラムで、幹事の竹岡さんが三浦雄一郎さんのエベレスト挑戦の話をしてくれました。竹岡さんはフォーラムの前日までベースキャンプにおられ、三浦雄一郎さんが言われた台詞を皆様に紹介したいと思って、飛行機を乗り継ぎ東京フォーラムに駆けつけてくれました。

三浦雄一郎さんは80歳の現在、エベレストに3度目の挑戦をしておられるのは御存じでしょうか。三浦さんはエベレストに着いた時には不整脈で、登頂は無理かと心配されたそうです。しかし5300メートルのベースキャンプに着いたら、だんだん元気になって登れるようになった。ご本人曰く「エベレストに来たから元気が出たのではない。エベレストに登りたいと思って、行動を開始したから元気が出たのだ」とのこと。〈エベレストに登りたい〉という強い目的を持ち、用意万端整えて、80歳でエベレストに登るのだ！と強く想って、自分の気持ちが高ぶってきたら、どんどん身体が元気になってきたというのです。大きな目的を持ったら元気がでるものだという話を現地で聞き、竹岡さんは是非中斎塾で紹介したいということでフォーラムに駆けつけて話をしてくれました。

なにごとの おわしますかは しらねども かたじけなさに 涙こぼる

本日ご紹介する書籍は、『幸せの遺伝子』（村上和雄著 育鵬社）です。我々の目指す「足るを知る」という考え方を、色々な角度で紹介している非常に良い本です。その中で、「ありがとうございます」「おかげさまで」「いただきます」といった言葉について、日本人が大切にしてきた価値観や生き方が凝縮されているとして、解釈しています。

「ありがたい」という言葉については、有り得べきが難しいことが起きる、滅多にないことが有る。対して「無難」という言葉があります。よく「無難な道を選ぶ」と言います。しかし無難な道を選ぶと発展向上はありません。トラブルが起きた時、それに真正面からぶつかって体験を活かせば、滅多にない貴重な経験をさせて戴いて「有難い」となります。

日本人の心の奥深い所にある貴重な体験、畏敬（恐れ敬う心）は大事です。我々の求める「足るを知る」について、知らず知らずの間にふっと思わせてくれる素晴らしい本だと思います。

「なにごとの おわしますかは しらねども かたじけなさに 涙こぼる」・・・神社仏閣に行くと、厳粛な雰囲気、畏れおおくという経験はありませんか。涙がこぼれる

まで行かなくても何となく頭を下げたくなったり、手を合わせたくなるというのは、日本人が皆、持っている心です。木内信胤先生がハイエク先生を伊勢神宮にお連れした時、「日本人の心の在り方がわかった」と仰ったそうですが、「一葉落ちて天下の秋を知る」という日本人が持っている感性は、なかなか外国人には伝わりません。日本人は四季折々の景色や環境に恵まれ、日本語という素晴らしいことばを生み出す感性をもった民族なのです。我々の基本哲学「知足」というものを素直にすっと解ってくれる民族は、あまりいませんね。漢字を使っているといっても、中国は今もご存知の通りの体たらくですし、韓国も似たようなものです。台湾は繁体字をそのまま使っているから、日本人と相通じる部分があると思います。領土問題についても、台湾だけは少し違う動き方をしています。

時事評論 一点から面へ広げてみる一

一昨日の朝・夕刊、昨日の朝・夕刊、今朝の朝刊を見ながら、丸印を付けて持ってきました。新聞の見方、本質・大局・歴史の大局的な見方をするのに、面と点があります。学問には縦の学問（学び方）と横の学問があります。そこに点があります。点はその次に面になります。

最近私は、縦の学問と横の学問が氣になって仕方がありません。縦の学問をしようと思ったら、人物一人について、生まれてから亡くなるまでどういう生涯を送ったか、どういう人物や書物に影響を受けたか…等々、その人物の生涯をずっと追いかけて、その人の自伝が書けるくらい調べ尽くす。そうすると、その人の追及したものが何なのかが見えてきます。その人が追及したものをずっと追いかけていくわけです。

例えば中村天風先生の場合、天風先生自身が病気になってしまった。自分を治してくれるお医者さんを探して世界各国を回ったのですが、見つからない。諦めて日本で死にたいと思って帰る途中、船の中でヨガの聖人であるカリアッパという先生に出会った。「私が治してやろう」という言葉でインドに付いて行ったわけです。そしてカリアッパ先生の教えに従って一所懸命修行するうちに、死の病から助かることが出来た。そして日本で素晴らしい業績を残したわけです。その中村天風先生の学び方、何を追及したのか、何を考えたのか、誰から影響を受けたのか・・・と、ずっと遡っていく。

その人物をどんどん掘り下げる、それが縦の学問の基本的な入り方です。安岡正篤先生は、聖賢が踏み固めた道を後から追いかけて歩くのではなく、聖賢は何を考えて歩もうとしたのか、その目的・目標と一緒に追いかけてください。それが学問の仕方の要諦である、という言葉を残しておられます。つまり縦の学問をやいなさいということです。一つ

のことをどんどん掘り下げる。そうすれば必ず知恵が湧いてきます。

横の学問は今の政治家に多いです。誰とでも広く浅く会話ができる。もちろん悪い事ではありません。ただ、縦と横の両方ないと困る。

新聞記事の読み方は、それに点が入ります。例えば今朝の日経新聞に「設備投資、年 70 兆円目指す」「法人減税、大胆な改革案を見送る」という記事がありました。そうすると経済に関する点の一つ入ります。更に「三洋電機解体 パナソニックは 3 年後を目途に国内外で 2500 人前後の従業員を 10 分の 1 に減らす。ピーク時に売上高 2 兆円企業だった三洋の事業機能はなくなり、解体される」という記事があります。パナソニックが三洋電機を買収した時の最大の目的は、リチウム電池で世界シェアの 4 割を握っていた三洋電機を取り込むことによって、グローバル競争に勝ち残ることでしたが、結局失敗してしまった・・・という点がまた一つ入ります。

他にも「足利市の鑿阿寺を国宝指定に」「イオンの女性管理職の比率 2050 年をめどに 50%増」「山崎製パンが中国に工場」、富士重工業吉永社長のコラム・・・こういった記事をどんどん読んでいくと、経済に関する点・政治に関する点・教育に関する点と、いくつもの点があるわけです。

ただ、この点を新聞で読むだけでは少し怖いですね。体験を入れなければいけません。例えばイオンさんの記事、私は実際に株主総会に出かけて行きました。そこで感じたことは、かつては<株主はお客様>という扱いだったのが、随分違って態度が大きくなっていました。これは危ないと感じました。このように実体験を入れることによって、点が面になります。

従って学ぶ時には、縦の学問・横の学問、点から面への学問、それらが全部融合して総合的なものになると、総合的学問として世の中の役に立っていく。私はそう考えています。ですから時事評論をされる時には、新聞・ネット・テレビ等々、出来得る限り色々な情報をとること。それに自分の体験を加えることです。そうすると情報が生きてきます。新聞やネットを見ただけでは、半分以下です。新聞やネットは必ず読みやすくしているし、読む人に迎合したものを書くので、自分の体験談を踏まえて読まない間違えます。

お時間がなくなりました。先週の東京フォーラムではマイナンバー制（朝日新聞 5/10）についてお話ししました。政府はとんでもないことを言い出しました。以前からずっと狙っていたわけです。政府はいよいよ始めるという意図を明らかにしたなと感じました。点だけで見ていると、そういう所には結びついて来ません。点が面になると、政府の意図が見える。そうすると自分自身の判断基準で、良い・悪いが言える。結果として、投票行動に上手に繋がって来ます。ご自分の判断基準を作る上においての話を最後にして、本日は

終了致します。どうも有難うございました。